

大原総合病院のベッドコントロールを担当しています！！

今回は当院のベッドコントロールを担当している統合病床管理部の米竹真弓看護副部長にインタビューし、仕事内容や当院の現状をお伝えします。



(📷 米竹看護副部長)

Q. ベッドコントロールの仕事について教えてください

A. 主に紹介患者さま、救急患者さまの病床確保とHCUの入退室のコントロール、転棟調整を行っています。また、大原医療センターと連携して回復期リハビリ病棟・包括ケア病棟への転院調整を行っています。

Q. 円滑に受け入れるためにどのような工夫をしていますか？

A. 毎朝、各病棟師長とベッドコントロールミーティングを行っています。各病棟の入退院・空床状況を確認して、紹介患者さまの受診の情報共有を行っています。空床状況を地域連携室・外来・救急センターに伝達し、当日のご紹介や救急要請に備えています。

Q. 苦労していることはありますか？

A. 臨時入院が多い場合は、思い切って翌日の入院予約の患者様の病床を使用しています。その分、翌日までに退院の患者様を増やしていただけるよう、先生方をお願いしています。入院当日の朝に急遽病棟を変更することもあり、診療科に協力をいただいています。

Q. 登録医の先生にひと言お願いします

A. 登録医の先生方には、日頃より患者さまをご紹介いただきましてありがとうございます。また、入院のご依頼時はお待たせしてしまい、申し訳ありません。診療科を越えた空床の活用や連携が図れるよう、迅速なベッドコントロールに努めて参りますので、今後ともよろしくお願いたします。

Q. 病床稼働率等の実績、ベッドコントロールの数など実績を教えてください

A. ①1日に**約24件**、**予定外入院**のベッド調整を行っています。

また、月平均のデータとしては、

②病床稼働率の平均は、**89%**

③救急車応需数 **281件**、救急車応需率 **87.5%**、

④救急車お断り件数 **39.9件**

⑤紹介患者応需数 **1,246件**、紹介患者応需率 **97.4%**、

⑥紹介お断り件数 **32.9件** です。 ※ (②~⑥のデータは平成31年4月~令和2年2月まで月平均)



(📷 毎週木曜日、大原医療センターと互いの病床状況を共有しています)



(📷 毎朝9:30~各病棟師長と病床状況を共有しています)

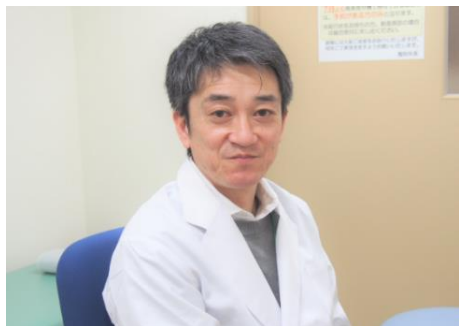
連携医療機関紹介



KAWAKAMI ORTHOPAEDIC & HAND CLINIC

当院整形外科外来にて、非常勤で勤務されていた川上亮一医師が4月7日に開業されます。

今回「Harmony」では、開業される川上先生にお話を伺い、クリニックをご紹介させていただきます。



Q. これまでの経歴を教えてください

A. 福島県立医科大学を卒業後、整形外科の医局に入局しました。菊地臣一教授に11年、紺野慎一主任教授に12年、お仕えしました。大原総合病院を含む福島県内の研修病院に勤務後、手指再接着の手術（マイクロサージャリー）と重度四肢外傷の治療を学ぶために、2003年に札幌医大救急集中治療部の土田芳彦先生のもとに国内留学しました。札幌から福島医大に戻ってからは、四肢の開放骨折、手指再接着、遊離皮弁といった新鮮重度四肢外傷、偽関節や骨髄炎の治療、手外科に関しては、先天性疾患から変性疾患まで全ての治療に関わっていました。福島に、医療用ヒル治療とマスカシ法という骨再建法を導入しました。手外科医＝重度四肢外傷医（？）という雰囲気を作った張本人です。

Q. 開業を考えたきっかけについて教えてください

A. 大学病院では、治療時期や治療方法の混乱で、難治となった患者さまの治療を多く経験しました。

救急車で搬送患者さまは初診で診ましたが、大多数は、様々な事情でこじれた紹介患者さまが多かったのです。

初めから、真っ当な治療を施せばよかったのという思いを抱きながら大学病院時代を過ごしていました。そうして10数年間、臨時手術や緊急手術に携わり、昼夜の区別のない生活をおくりました。時を逸せず確かな治療を施すと、治療成績はよくなります。忙しいけれど、充実した日々でした。そんな中で、自分の家族の病気とその後の後遺症を経験して、昼と夜を経験してみようと思いました。大学時代に経験した難治症例にはならないように診断、治療するチャンスだと思いました。

Q. クリニックでの診療内容、どのようなことに力をいれようとしていますか？

A. 手外科医ですが、腰痛、神経痛、肩膝疾患、および骨粗鬆症といった整形外科全般を治療します。

●エコーでの迅速な検査

●X線透視を使用した神経根ブロック、各種造影関節ブロック

●手指のしびれをクリニック内の末梢神経伝導速度検査装置を用いた診断が可能です。腱鞘炎、手根管症候群、デュピュイトラン拘縮（軽症例）、肘部管症候群、手指外傷はクリニック内で手術しようと準備しています。理学療法士が2名常勤です。ロコモの予防と治療を行って、寝たきりゼロを目指します。

Q. どのようなクリニックを目指していますか？

A. 心づつ、患者さまが医療機関を訪れるときには相当な決心が必要です。

そんな決心が不要で、来院しやすく親しみやすいクリニックを目指します。

予防医学（ロコモ駆逐、骨粗鬆症治療）を行うとともに、エコー、透視装置や神経伝導速度検査を使って、手術治療も一貫してできる施設を目指します。

Q. 大原総合病院に望むことは何ですか？

A. 大原総合病院とは2002年から非常に長い間お世話になっています。これまで通りにいや、それ以上にお付き合いいただけたら、とてもうれしいです。

Q. 他の登録医の先生方へひと言お願いします

A. コロナウイルス関連で、類い希な恐ろしい時期に開院となります。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前	9:00~12:30	●	●	●	●	●	-11:00 ※
午後	14:30~18:30	●	●		●	●	

〒960-8071 福島県福島市東中央3丁目7番地1

TEL.024-563-3555
FAX.024-563-3580

*水曜午後は、市内総合病院にて手術を行います。 ※止むを得ずの変更の際はご了承ください。



面会禁止

新型コロナウイルス肺炎
感染防止のため

**入院患者さまへの面会は
ご遠慮願います。**

(ただし病院側で必要と判断した場合は除きます)

※面会が許可された方は、下記について
ご協力をお願いいたします。

- 体温チェック
- マスク着用
- アルコールによる手指衛生

病院長 令和2年3月9日

【新型コロナウイルス感染対策（ご面会について）】

新型コロナウイルス感染の国内発生の拡大に伴い、大原綜合病院（上町）および大原医療センター（鎌田）では、令和2年3月9日（月）より当分の間、面会禁止にさせていただきます。

ただし、医師からの説明や入退院当日など、病院側で必要と判断した場合は除きます。

- 面会を許可された方には、受付で手続きの上、「入館証」をつけていただきます。
- 面会者には「体温チェック」「マスク着用」「アルコールによる手指衛生」にご協力をお願いいたします。
- 当面の間、原則、入院中の患者さまの外出・外泊はできませんのでご了承ください。

入院中の患者さまを感染症から守るため、ご理解とご協力をお願いいたします。



2月17日（月）、大原記念ホール（上町テラス 2F）にて市民公開講座「大原けんこう講座」を開催しました。けんこう講座では初のテーマ「認知症」を取り上げ、大原綜合病院神経内科 吉原章王部長と認知症看護認定看護師 上田宏美看護師が講師を務めました。講演では、認知症のタイプ別症状から医師の診断基準と予防法、そして認知症患者の心理や接し方、薬の効果など様々な最新情報を各専門分野から分かりやすく説明しました。

120名以上の地域の皆さまに來場していただき、年齢層も70代を中心に30代から80代以上まで幅広く、認知症への関心の高さが伺えました。新型肺炎の恐れも叫ばれている中での開催でしたが、ご來場者の皆様には手のアルコール消毒・マスク装着にご協力いただきありがとうございました。

令和元年度の「けんこう講座」は今回が最終となりました。

今年度は11回開催し、のべ900名の地域の皆さまに熱心に聴講いただきました。たくさんのご來場と健康への関心をお寄せいただきありがとうございました。なお、令和2年度は5月から月1回をベースに事前申し込み不要・無料にて開催継続いたします。日程・テーマは現在調整中です。決まり次第、facebookや院内掲示、ホームページなどで情報公開いたします。大原記念財団はこれからも地域の皆さまの健康意識を高めるお手伝いをさせていただきます。



大原記念財団の理念

人を愛し、病を究める

私たちは、すべての患者さまとご家族のために常に一步先行く医療を探究し、優しさを持って最善を尽くす医療を実践することにより、地域から信頼される病院を目指します。

制作 大原綜合病院 地域連携相談室

発行者 一般財団法人 大原記念財団

理事長 佐藤 勝彦

電話 024(526)0371 ダイヤルイン

FAX 024(526)0935

代表 024(526)0300 内線(1157)

住所 福島市上町6番1号

大原記念財団職員行動規範 10カ条

私たちは、

1. 医療安全を確立し、安心と信頼を獲得します。
2. 命の尊厳を深く理解し、患者さまの権利を尊重します。
3. 優しさを持ち、気づきの医療を実践します。
4. 人間性豊かな医療人となるよう、常に自己研鑽します。
5. 新しきことへの挑戦し、質の高い医療を創造します。
6. 医療人としての誇りを持ち、如何なる時も最善を尽くします。
7. 医療情報の共有と活用を促進し、得られた情報は厳格に管理します。
8. 地域社会に支えられていることを認識し、医療連携を推進します。
9. 相互に敬意を払い、連携を密にして組織的に行動します。
10. 未来への発展のために、健全経営を目指して努力します。